

介詞フレーズを含む文の否定⁽⁰⁾

相 原 茂

0

0.1 介詞フレーズ（介詞+目的語）を含む文の否定形を考えてみる。例えば、
介詞“离”を含む

1) 离学校很远

の否定形は

1)' 离学校不远

であり、決して“不离学校远”とはならない。ここでは介詞“离”を含む文の
否定形は

介詞+NP+Neg (=不)+VP

なる形をとる。

一方、介詞“跟”を含む次の文

2) 跟他借钱

では、この否定形は

2)' 不跟他借钱

と、Neg (=不) は介詞フレーズの前に置かれ、“不” を介詞フレーズの後に
置く“*跟他不借钱”は成立しない。すなわち、介詞“跟”を含む2)の否定形
は

Neg (=不) +介詞+NP+VP

なる形をとる。

否定辞“不”が介詞フレーズの前に位置するタイプを“前 qián 不”型、略
して「Q不型」と呼び、後に“不”が置かれるタイプを“后 hòu 不”型、略
して「H不型」と呼ぶことにする。

介詞フレーズを含む文の否定

なお、本稿では否定辞として“不”のみを扱う。

0.2 一般に介詞フレーズを含む文の否定形式は次のいずれかである（ここでは、当該文の否定形式が存在するものについてのみ考える）。

i) Q不型

ii) H不型

iii) QH不型

ここで、QH不型というのは否定辞“不”が介詞フレーズの前にも後にも来ることのできるタイプを指す。それぞれの例を以下に示す。

<Q不型>

- 3) 往东走 → 不往东走
→*往东不走
- 4) 给他打电话 → 不给他打电话
→*给他不打电话
- 5) 向他学习 → 不向他学习
→*向他不学习
- 6) 从这儿走 → 不从这儿走
→*从这儿不走

<H不型>

- 7) 离这儿很远 →*不离这儿远
→ 离这儿不远
- 8) 对于他的建议我们应该重视
→*不对于他的建议我们应该重视
→ 对于他的建议我们不应该重视
- 9) 关于这个问题先下结论
→*不关于这个问题先下结论
→ 关于这个问题先不下结论

<QH不型>

- 10) 跟女人来往 → 不跟女人来往

→跟女人不来往

11) 和他的一样 →不和他的一样

→和他的不一样

種々の介詞フレーズを含む文は、もしそれが否定可能であれば、上の3つのタイプのどれかに属する。

このように否定形式が分かれるのは、個々の介詞に帰因すると単純に考えれば、

Q不型介詞——往, 给, 向, 到, 用, 从, 朝

H不型介詞——离, 对于, 关于

QH不型介詞——跟, 和, 同, 对

と分類することが可能である。つまり、特定の介詞ごとに、いかなる否定形をとるかが定っていると見るのである。

しかし、この考え方は正しくない。既に見たように、QH不型と分類された“跟” gēn は例文10)では確かに2つの否定形をもつ。

10) 跟女人来往 → 不跟女人来往

→ 跟女人不来往

しかし、例文2)ではQ不型しか許されなかった。

2) 跟他借钱 → 不跟他借钱

→*跟他不借钱

同じくQH不型をとる“和” hé や“同” tóng, “对” duì についても同様である。常に2つの否定形が可能なのではなく、いかなる述語VPをとるかによって制限を受ける。例2), 10)に関して言えば、述語VPが“来往”の時はQH不型が許されるが、“借钱”の時はQ不型しか許されない。

肝要なのは、述語VPである。勿論、特定の介詞は、機能上また意味上、特定のタイプの述語VPとしか結合しないということはある。その結果として、述語VPが単一タイプとなり、当該介詞は常に単一の否定形、Q不型かH不型しかとらない、ということも十分起こり得る。しかしながら、上の“跟”の例からも明らかのように、決定的作用を果しているのは、述語VPと見るべ

きである。

0.3 本稿では、以上のような観点から、何故、介詞フレーズを含む文にQ不型とH不型の2つの否定タイプがあるのか、またいかなる場合にQH不型が許されるのかを検討してゆく。その際、主にQH不型をとる可能性をもつ介詞群“跟、和、同、对”を中心にすえて考察する。とくに“跟、和、同”の3語は用法・意味がほぼ共通するので、“跟” gēn を中心として見てゆく。

“跟”から成る介詞フレーズを含む文が、いかなる要因のもとでQ不型、H不型、QH不型をとるかを探り、そこで得られた結論が他の介詞についても有効か否かを調べることをもって結論の検証とする。

1

1.1 “跟”が述語VPとして、次のような特徴的なものをとる時は、当該文はQH不型となる。

- 12) a. 这个不跟那个相同。
b. 这个跟那个不相同。
- 13) a. 不跟四人帮那会儿一样。
b. 跟四人帮那会儿不一样。
- 14) a. 他不跟我一样高。
b. 他跟我不一样高。

ここにおける“跟”は“引进比较的对象”(《现代汉语八百词》201頁)と言われる用法であるが、⁽¹⁾述語VPの側から見れば、主語NPと“跟”の目的語NPの二つを比較した結果「同じか否か」を表す意味をもつものに限られる。すなわち

一样 相同 相似 相反 一致 同 差不多……

などである。このうち“同” tóng は単音節であるためH不型しかとらず、また“差不多” chàbuduō は、Negを内包しているため否定形がない。⁽²⁾

周知のように、このタイプのVPにあっては、H不型、すなわち“不一样、不相同”のように述語を否定する方が自然である。

Q不型をとれば、“跟+NP”がNeg (=不)の否定の射程内に入るため、

15) 他的意見不跟你的一样, 跟你弟弟一样。(彼の考えは君とはちがう, 君の弟と同じだ)

のように, 否定の射程内にある“跟+NP”の部分と対比される形で, 「Aとは違いますが, Bとは同じだ」といった文にする, 或いは, 明言されずともそのような含意をもつ。ここでは述語 VP が形容詞である点に留意されたい。

このタイプに属する述語 VP としては, さらに

他跟我同班/同岁/同路。

などを追加することができ, その否定形は Q 不型, H 不型いずれも可能である。但し, 「同じクラスだ」「おなじ年だ」と形容詞的, 状態的な意味に解釈される場合は H 不型をとるのが普通である。⁽³⁾

1.2 次に, 述語 VP がやはり形容詞またはそれに類するものであるが, Q 不型が成立しない例を見る。

16) a. *我不跟这个人相识。

b. 我跟这个人不相识。

17) a. *他不跟小华相投。

b. 他跟小华不相投。

18) a. *他不跟小王对路。

b. 他跟小王不对路。

19) a. *他不跟孟蓓般配。

b. 他跟孟蓓不般配。

これら述語 VP は「同じか否か」を言うものではないが, “跟”によって導入された目的語(これを NP₂ と称し, 主語の名詞句 NP₁ と区別する)と主語 NP₁ とを見比べて, 「つり合う, 気が合う, 互いに見知っている」ことを述べるものである。この意味で, 両者は共に, NP₁ と NP₂ 間に存する, ある関係を言い立てるものと言うことができる。

しかも, “一样, 相同”の類も, ここで扱った類も, 共に形容詞あるいはそれに類するスタティックな述語である。すなわち, 述語 VP がスタティック [+静態的] な場合は, その否定は H 不型が優勢であると結論づけられる。

“跟”にはまた“表示与某事有无关系”（《八百词》202頁）とされる用法がある。

20) 他跟这事没关系（《八百词》202頁）

21) 这事跟我有牵连（ ﺍ ）

ここでも、述語 VP は「関係の有無」を言うのであり、スタティックなものに限られる。従って、

22) a. *他去不去不跟我相关。

b. 他去不去跟我不相关。

と、H不型しか許されない。さらに、次のような述語 VP も、やはり静態的であり、Neg (=不) は後置される。

23) 他跟我不严格。

24) 他跟我不亲热。

以上、述べてきたことは代表的なH不型の介詞である“离”lí においても確認できる。“离”は専ら2点間の時間的、空間的へだたりを表すゆえ、その述語 VP は“远、近”または“有十公里”などのスタティックな少数の種類に限られる。

25) 离我家不近

26) 离北京不远

27) 离上海没有四十公里

我々が本節で得た結論は、介詞フレーズを含む文の述語 VP が、もしスタティック [+静態的] なものであるならば、その否定型はH不型が優勢もしくはH不型のみが許される、ということに他ならない。⁽⁴⁾

2

2.1 述語 VP が動詞あるいはこれに類する [+動態的] なものである時は、一般に Neg を介詞フレーズの前に置くQ不型をとる。

28) a. 他不跟张三下棋。

b. *他跟张三不下棋。

- 29) a. 我不跟他借钱。
b. *我跟他不借钱。
- 30) a. 我不跟他学习。
b. *我跟他不学习。
- 31) a. 她不跟小华比美。
b. *她跟小华不比美。

28)~31)において、Neg (=不) を介詞フレーズの後に置くH不型はいずれも成立しない。この理由は、28)~31) の述語 VP がいずれも [動態的] であることに求められる。すなわち、

述語 VP $\left\{ \begin{array}{l} \text{静態的} \rightarrow \text{H不型} \\ \text{動態的} \rightarrow \text{Q不型} \end{array} \right.$

なる傾向を見てとることができる。この図式は単純なものであるが、本稿が主たる考察対象にしている“跟，同，和，对”などによる介詞フレーズを含む文においては、一つの有力な目安となる。

2.2 さて、同じく動詞であっても、次のペアでは、Q不型、H不型ともに文法的である。

- 32) a. 他不跟张三打架。
b. 他跟张三不打架。
- 33) a. 张三不跟他说话。
b. 张三跟他不說話。
- 34) a. 他不跟女人来往。
b. 他跟女人不來往。

先の図式から言えば、a式が成立するのは問題はないが、b式は成立しない筈である。いかなる要因が、28)~31)ではQ不型のみを許容し、32)~34)ではH不型をも許容しているのか。

例文28)から34)までに現れている“跟”は基本的に同質のものであるとしてよいから、要因は述語 VP の性質に求めなければならない。すなわち、“跟”よりなる介詞フレーズを含む文において、その否定形を分かち2種類の述語 VP

が存在する：

A類=下棋, 借钱, 学习, 比美……

B類=打架, 说话, 来往……

A, B 2類とも [+動態的] であることに変わりなく, A類の方が数も多く (恐らく *list up* 不可能), かつ共に Q 不型は可能なのであるから, B類動詞の特異性—— [+動態的] であるに関わらず何故 H 不型が許されるか——を探ることになる。

2.3 ここで, 既に見た述語 VP = [+静態的] な場合と, A B 2類の動詞の場合とを並べ比較してみる。

- ① 我跟张三不般配 跟・NP・不・Adj
- ② 不跟张三下棋 不・跟・NP ・Verb
- ③ 不跟张三打架 不・跟・NP ・Verb
- ④ 跟张三不打架 跟・NP・不・Verb

②式と③式は全く平行関係にある。①式は述語 VP が形容詞であり [+静態的] であるために, “不” が Adj についている。それならば, 構造式から見れば, ①と平行関係にある④式でも, Verb である“打架”は, この場合 [+静態的] と解釈されるのではないか, という予想が立てられる。すなわち,

①跟+NP+不・Adj ≈ ④跟+NP+不・Verb

であり, ①式の“不・Adj”と④式の“不・Verb”は何らかの文法的共通項をもつ。この共通項とは, ④式の“不・Verb”が, それ全体として [+静態的] なる性質を持つということに他ならない。すなわち,

35) 我跟张三不 打架/说话/来往/……。

が文法的に成立するということは, 少なくとも“不・Verb (= B類)”が客観的状态表現, 即ち形容詞性の意味と機能を担う場合においてのみ許されるとする仮説である。

具体的に, それぞれの例文について, その表す意味を観察すれば, 上の仮説の妥当性の一斑が窺える。

32) b. 他跟张三不打架。〈彼は张三とは喧嘩をしない間柄である→仲がよ

い>

33) b. 他跟张三不说话。〈彼は張三とは口もきかない間柄である〉

34) b. 他跟女人不来往。〈彼は女性とはつき合いがない〉

いずれも主語 NP₁ と“跟”の目的語 NP₂ の間に存する客観的状态表現となっている。これに対して、32)~34)の場合は、主語 NP₁ の意志表現である。

32) a. 他不跟张三打架。〈彼は張三とは喧嘩をする気がない〉

33) a. 他不跟张三说话。〈彼は張三とは話をしたがらない〉

34) a. 他不跟女人来往。〈彼は女性とはつき合わない〉

2.4 述語 VP が直接否定される H 不型では、“不・VP”は客観的状态表現であるという考え方は、既に《現代汉语八百词》(201頁)において、次のような形で記述されている。

跟 gēn

(動詞用法略——引用者)

〔介〕1. 表示共同，协同。只跟指人的名词组合。

你去~老王研究一下 | 我~你一起去 | 小莉~同学游泳去了

a) 否定词‘不’用在‘跟’前，表示主观意愿。

我不~他在一起 | 我不~这个人见面

用在‘跟’后，表示客观事实。

我~他不在一起 | 我~这个人不相识

b) 否定词‘没’在前在后意思相同。

我没~他在一起 (=我~他没在一起) | 我没~这个人见面

(=我~这个人没见面)

以下，《八百词》に述べることを繰り返しつつ，自説を補ってゆく。

否定辞“不”が“跟”の前に用いられると「主観的願望・意志」を表す。

36) 我不跟他在一起。(Q不型)

〈私は彼と一緒にごめんだ〉

37) 我不跟这个人见面。(Q不型)

〈私はその方とはお会いしません〉

これに対して、“不”が“跟”の後にあれば、「客観的事実」を表す。

38) 我跟他不在一起。(H不型)

〈私は彼とは一緒に住んでません/同じ職場ではありません〉

39) 我跟这个人不相识。(H不型)

〈私はその方を存知あげません〉

否定辞が“没” méi であれば、Q没型もH没型も共に意味は同じであるという。これはQ不型 vs H不型で観察されたような意味上の対立は解消し、共に客観的事実を表すの謂であろうが、厳密に Neg (=没) の否定のスコープを考慮に入れば全く同じであるとは言えない。

さらに、Neg=“没”の場合、あらゆる介詞フレーズを含む文で、Q没型、H没型が共に成立するわけでも、むしろ、ない。

41) a. 我没给他打电话。

b. *我给他没打电话。

以上のような観点を踏まえ、我々が行なうべきことは、NP₁+跟+NP₂+不+VP なる構文において、

- I. この構文に生起する VP はいかなる動詞群か。すなわち H不型をとることのできる B類動詞はどのようなメンバーから成るのか。
- II. その場合、この構文はいかなる意味を表すのか。
- III. このような現象が起こる構文論的根拠は何か。

の3点をテーマにすえ、考察をすゝめてゆく。

3

3.1 H不型をとる動詞にはどのようなものがあるのか (I)。これを調べるには

NP₁+跟+NP₂+不+_____

なる環境⁽⁵⁾に生起可能な動詞をインフォーマントチェックによって列挙すればよい。その結果、次のような表を得た。生起可能なものをB類動詞、生起不可能

表 1.

B 類	来往	接触	打架	吵架	
	商量	打招呼	顶嘴	吵嘴	
	打交道	讲话	撒谎	说大话	
	说话	说实话	发火	发脾气	
	在一起		发牢骚	找麻烦	
		闹矛盾			
A 類	下棋	比赛	比美	打赌	打网球
	打乒乓球	借钱	谈话	学习	辩论
	交换意见	交代	亲嘴	结婚……	

なものをA類動詞（フレーズを含む）とする。

B類に属する動詞にはある意味的傾向性が感じられる。それを、具体的な文を見ることによって確認してゆく（Ⅱ）。

42) a. 他不跟张三打招呼。

b. 他跟张三不打招呼。

42) aは〈彼は張三とは挨拶しない〉という意志表現であるが、42) bは“不打招呼”が客観的事実を表す状態表現となっていることから〈彼は張三とは挨拶もしない間柄だ〉という意味になる。ここでは〈挨拶をしない〉は恒常的な、時間的幅をもった状態表現なのである。⁽⁶⁾かつ、この構文は主語 NP₁も“跟”の目的語 NP₂も、いずれも人間であることから、主語 NP₁の NP₂に対する、一種の対人関係表現となる。すなわち、構文の読みとしては

NP₁ハ NP₂ニ対シテ“不・VP”ナル状態ヲ保持シテイル

となる。さらに、

43) a. 他不跟张三说话。

b. 他跟张三不说话。

の例でも、43) bは単に「話をしない」というのではなく、「口もきかない間柄」という、一種の人間関係のあり様を表していると解釈される。

一般的な「対人関係・人間関係」を表すという視点で、改めてB類動詞を眺めれば、ここには一応それを担うに適したメンバーが集っていると思われる。

また、「人間関係」であれば、極めて大雑把にとらえれば「良好か否か」ということに帰着する。表中、左側の動詞群は「+評価」に、右側のそれは「-評価」にと二分することもできよう。

これに対し、A類動詞は、この構文にあっては“不・VP”の形で対人関係を表す客観的状态表現としては、中国語の世界では認められていないと解釈される。

3.2 さらに、同じような意味内容をもつ動詞であっても、次のような違いが観察される。

44) 他跟爸爸不说话。

45) *他跟爸爸不谈话。

“说话”はH不型が成立するが、“谈话”では

45)' 他不跟爸爸谈话。

のQ不型しか成立しない。この理由は、意味論的には、“谈话”が「ある具体的な問題について、ある具体的な人と特に考えを話し合う」という意味をもち“说话”のように広く一般的に「口をきく、言葉をかわす」という人間関係における挨拶機能を欠くためである⁽⁷⁾。

中国語には“吃饭，说话，走路，买东西，写字”など、虚目的語をとり、V-Oの形で「出来事 (event)」よりは、一種の「行為タイプ」を表す動詞群が存在するが、我々が今問題にしている構文でも、“说话”の虚目的語“话”を省くことはできない。

46) a. 他不跟爸爸说。

b. *他跟爸爸不说。

“话”を欠き、単に“说”のみでは、ある特定のことを言うという含意が生まれ、一般的対人関係を担う表現たり得ないのである⁽⁸⁾。

“说话”や“讲话”を意味論的上位概念にある動詞と考え、この下位に、より具体的、特殊的、個別的な動作を表すものとして

谈话 聊天 开玩笑 张嘴 交代 谈判

辩论 争论 交换意见 说 ϕ 讲 ϕ ……

などがあると考えれば、これらはいずれも介詞“跟”をとりながらもH不型否定形をとらない。すなわち、少なくともこの構文においては対人関係を表す状態表現にはなりえず、「出来事 (event)」としてのみ捉えられるA類動詞なのである。

以上、Ⅱに関するの意味論的解釈を述べた。意味に関わることゆえ、論旨に不明瞭さが残るが、上で見た考え方は、例えばNP₁, NP₂が人間でなく、国家であるような場合にも適用可能である。

47) a. 日本不跟中国接壤。

b. 日本跟中国不接壤。

48) a. 日本不跟中国打仗。

b. 日本跟中国不打仗。

3.3 次に、このような現象が起こる構文論的根拠を考えてみる (Ⅲ)。

この構文は、結局のところ、“跟”によって相手方 (NP₂) を導入し、主語NP₁は

NP₂ = 对シテ / “不・VP” ナル態度ヲ保持シテイル

ことを表すものであった。このような読みが付与されるのは“跟NP₂”とVPとの間にNeg (=不) が割って入っているからに他ならない。すなわち、

49) a. 不 [跟 NP₂+VP]

b. [跟 NP₂]+不 [VP]

“不”が介詞フレーズの前にあるa式 (=Q不型) では [跟 NP₂+VP] 全体をその否定の射程内におさめるが、b式 (=H不型) では“不”が否定するのは [VP] のみであり、[跟 NP₂] は否定の範囲外にある。このことが、[跟 NP₂] を、「NP₂ = 对シテ」と極立たせ、後続の不 [VP] と2極分化を起こさせている。

逆に言えば、a式では [跟 NP₂+VP] が一つの動作行為として一体化して捉えられるのに対して、b式では [跟 NP₂] と VP の間に Neg (=不) の介入を許すほどに、構造上のスキ間が存在するということである。この点は次のようにして確かめことができる。

介詞フレーズを含む文の否定

第一に、a式(=Q不型)しか許されないA類動詞の場合は、助動詞挿入も介詞フレーズの前に限られる。

- 50) a. 我要跟他下棋。
b. *我跟他要下棋。
- 51) a. 我要跟他结婚。
b. *我跟他要结婚。
- 52) a. 我想跟他借钱。
b. *我跟他想借钱。

しかし、b式(=H不型)をも許すB類動詞の場合は、もちろん助動詞を介詞フレーズの前に置く方が自然ではあるが、介詞フレーズの後に置く例文も容認度が高く、文法的に成立する。

- 53) a. 我要跟他说话。
b. 我跟他要说话。
- 54) a. 我要跟他来往。
b. 我跟他要来往。
- 55) a. 我要跟他接触。
b. 我跟他要接触。

第二に、“跟 NP₂”を主語の前へ移動するテストを行ってみる。[跟 NP₂+VP]が一体化していると仮定したA類動詞の場合は、いずれも“跟 NP₂”の主語前移動変換は許されない。

- 56) 我不跟他下棋。
→*跟他，我不下棋。
- 57) 我不跟他⁽⁹⁾结婚。
→*跟他，我不结婚。

これに対して、B類動詞の場合は、主語前移動変換が許される。

- 58) 我不跟他说话。
→ 跟他，我不说话。
- 59) 我不跟妈妈撒谎。

→ 跟妈妈，我不撒谎。

さらに，禁止命令を表す“別” bié の挿入テストを行ってみると，やはり我々の予想通り，A類では介詞フレーズの前にしか置けないが，

60) a. 你別跟他学习。

b. *你跟他别学习。

61) a. 你别跟他借钱。

b. *你跟他别借钱。

B類では介詞フレーズの前後共に可である。

62) a. 你别跟他来往。

b. 你跟他别来往。

63) a. 你别跟他接触。

b. 你跟他别接触。

但し，“別”挿入後の62) b, 63) bは“不”挿入の場合とは異なり，“別・VP”は客観的状态を表すものではない。

以上のような形式的なテストによって，我々は，この二つの構造は，“跟NP₂”と述語VPとの一体感において明らかな差異があると見ないわけにはゆかない。すなわち，

64) A類：[跟NP₂+VP]

B類：[跟NP₂]+[VP]

のように，B類動詞を含む文は構造上，二極分化している或いは二極分化しうるものであると考える。このような構文上の違いが，Negの挿入を許し，H⁽¹⁰⁾型否定形を許容していると解釈する。

4

4.1 最後に，本稿が提示した，介詞フレーズを含む文の否定方式に関する一つの基準：

述語 VP	{	[+静態的] → H不型
		[+動態的] → Q不型

の有効性とその限界を記しておきたい。もとより「介詞」と呼ばれる類には種々様々な機能と用法をもつ語が含まれており、これらすべてを一つの単純な基準で律し切れるものではない。特に、介詞“在”などはこの基準の範囲外にある代表的なものである。

65) 不在家吃饭 ↔ 在家不吃饭

述語 VP が [+動態的] でありながら QH 不型をとることができる。場所提示の機能をもつ“在”については否定のスコープや、65) と次の 66) の非対称なども含め考えるべき問題は多い。

66) 不在门口等你 ↔ *在门口不等你

4.2 介詞“对” duì については上の基準がほぼ適用できる。

67) a. *我不对这个问题感兴趣。

b. 我对这个问题不感兴趣。

68) a. *我不对你的情况了解。

b. 我对你的情况不了解。

69) a. *他不对这事情用心。

b. 他对这事情不用心。

述語 VP はいずれも [+静態的] と見ることができる。さらに、

70) a. 他对人民不负责。

では、Neg が後にあることによって、“不负责”が「無責任である」の意の [+静態的] に理解される。それに対し、次の 70) b では Q 不型否定形をとり、V-O 動詞として「責を負う」の意の [+動態的] と解釈される。

70) b. 他不对人民负责，只对议会负责。

〈彼は人民に対しては責を負わず、議会に対してのみ責を負う〉

同一語形が形容詞と動詞（あるいは [+静態的]）に兼属する場合は、このように QH 不型をとる例が少なくない（“同岁，同路，同班”なども想起されたい）。

71) a. 他不跟张三客气。

b. 他跟张三不客气。

述語 VP が形容詞である場合は、基準通り H 不型をとる。

72) 他觉得谁都对自己不好。

73) 他对我不公平。

74) 他对工作不认真。⁽¹¹⁾

結局，“对”においてもQ不型をとるのは〔+動態的〕なものに限られる。

75) 他不对我笑。

76) 他不对外人说。

4.3 我々の基準の有力な反証例と思われるのは、次のような“比”構文である。

77) a. 他不比我高。

b. *他比我不高。

“比”構文では述語が形容詞であるにも関わらずH不型をとることはない。しかし、厳密に言えば、これは述語形容詞が評価に関して中立的な、即ち〔±評価〕でなく〔φ評価〕の、かつ単音節のものに限られる。

〔φ評価〕の単音節形容詞とは以下のようなものを指す：

大 小； 远 近； 高 矮； 冷 热； 宽 窄； 快 慢；
厚 薄； 深 浅； 胖 瘦；……

これに対し、評価に関して貶褒の色彩を帯びているものは、H不型をとっても完全に非文法的とは見なし得ない側面をもつ。

78) a. 这张不比那张好看。

b. △这张比那张不好看。

c. 这张比那张还不好看。

d. 这张比那张更不好看。

78) bは容認可能性が低いが、cあるいはdのように“还”や“更”を加えれば文法的である。同様に次の文も全く可能である。

79) 他比张三更不精明。

そもそも“比”構文の否定は“不”を用いるより、“没有”を使って、

80) 这张没有那张好看。

とするのが自然であるが、ここで指摘しておくべきことは

78) c. 这张比那张还不好看。

81) *这张比那张还不厚。

に見られる形容詞の種類による対立である。何故、単音節の[ϕ 評価]とされ形容詞については、“还”や“更”を補ってもH不型が許されないのか、これについては全く新しい観点からの説明が用意されなくてはならない。

ここでは、形容詞を述語とする“比”構文でも、H不型は“还”や“更”の助けをかりることによって決して我々の基準に対する反証を形成するものではないことを指摘するに止める。

(1989. 1. 27)

注

(0) 本稿は1986年、東京外国語大学における「陸俊明教授を囲む研究討論会」において“怎样否定‘介词+NP+VP’?”と題して口頭発表を行った草稿に加筆修正を施し、日本語化したものである。

口頭発表後、輿水優教授は拙論を参考にされつつ同一テーマを含む、より広範な否定に関わる論文を“第二届国际汉语教学讨论会”に提出されている。参考文献の輿水1987がそれであるが、本稿執筆に際し同論文より有益な示唆を受けている。

(1) 輿水1987は“这个跟那个不一样”における“跟”を連詞と見るが、それを示す積極的な理由はない。“这个”の後にポーズ挿入可，“那个”の後に“都”挿入不可、いずれも“跟”を連詞とするには不利に働く。さらに“这个”と“那个”を入れ替えば具体的な文脈においては主題が変わり知的意味に変化をきたす。“当媳妇跟当国女不一样”。“这里的一切跟街里不一样”などの例を参照。以上の三点はいずれも“跟”が介詞であることを指示している。

(2) 一般に Neg (=不) を内包する語が述語 VP であれば、“不”単独によるその文の否定形はない。例えば、“我跟他过不去/差不多/合不来”など。

(3) “同班, 同岁, 同路”などがH不型, Q不型共に可能なのは、以降で述べる[±静態的]と関わる。即ちV-O構造の動詞と見れば[±静態的]であり、形容詞と見れば[+静態的]である。

(4) H不型として例示した“关于”や“对于”, さらには“连”“除了”などの介詞は, その述語VPが[±静態的]に関らず, Negがこれらの介詞の前につくことはない。話題や例示として取り立て機能の顕著なこれらの介詞は, はじめから否定の圏外にある特異な類とみなすことができる。

(5) 本稿では, 核となる要因を探るため, 状語や“了”を排除し, 環境を最底必要

限なものに設定した。この点はしかし弊害もなしとはしない。なお注) 6, 10をも参照。

(6) 一定の時間的幅をもち既に実現している客観的事実を表すことから、小説中の実例では“不+VP”の前に“从来, 一概, 一直”などの副詞がくることが多い。

①平时在村里, 他对女人一概不来往。(浩然)

②田小武脾气虽暴, 对他爹从来不发火。(浩然)

例①②の“对”は共に“跟”に置き換え可能。

(7) 例えば“打招呼”はB類であるが“点头”はB類動詞ではない。“打招呼”は“点头”を含む上位概念の動詞であると見なすことができる。

(8) 相原1985参照。

(9) “结婚”と“离婚”は振舞いを異にする。“结婚”においては、その相手(NP₂)は重要な情報であり、[跟NP₂+VP]の一体化があるが、“离婚”においてはその相手は自明である。

①*我跟他不结婚。↔②我跟他不离婚。しかも②には意志の読みしかない。

(10) 但し、A類動詞の場合「一体化」していると言っても、常に他の要素の介入を許さぬという意味ではない。“不”や“别”, “要”, “想”は単独では挿入不可であるが、次のように例えば“才, 决”などの否定補強辞を添えれば可能である。

① 我跟他决不下棋。

② 我跟他才不借钱。

本稿では、[跟NP₂+VP]の連鎖中に“一块儿, 一起, 常”などの状語のある例を考察から除外している。また、対比構文であればA類動詞でもH不型が許される。

③ 我跟他不下棋, 只打球。

(11) “很不___”なる環境に生起可能な形容詞は一般に介詞“对”フレーズを含む文においてH不型をとることができる。このことは不Adjが意味的統一体を形成していることを物語る。それに反し[一評価]の形容詞は極めて不自然になる。

1) 他对工作不认真/*不马虎

2) 对人不热情/*不冷淡

なお相原1986参照。

〈参考文献〉

呂叔湘 1980 《现代汉语八百词》商务印书馆

興水優 1987 〈日本学生常犯的语法错误〉(第二届国际汉语教学讨论会论文)

相原茂 1986 〈关于“很+不·形容词”成立的几个条件〉《第一届国际汉语教学讨论会论文选》北京语言学院出版社

相原茂 1985 〈‘亲嘴’の‘嘴’は誰のもの?〉『明治大学教養論集(外国文学)』176号